

# 少雨に関する水稻管理について

平成25年6月10日  
営農支援課

## 1 早期水稻

幼穂伸長の時期にあり下旬より出穂が始まるが、水不足となると収量の低下が懸念されるので、地域で話し合い計画的な配水を行う。

通水用の溝の設置（溝切り）や、ポリチューブの利用により少量の水を効率良く使えるよう努める。

### 1) 穂ばらみ期から出穂期前後にあるものの対策

#### 【水管理】

- ① 水を最も必要とする時期であるが、田面が湿っている程度でも構わないので、2～3日毎の走り水程度（間断かん水）で間に合わせる。
- ② 河口に近いところでポンプ揚水を行う場合は、海水の混入に注意する。

#### 【その他の管理】

- ① 穂いもち等の防除時期になったら、地区防除基準等により適期防除を行う。
- ② 穂肥の施用はできるだけ湛水しているときに行う。

## 2 普通期水稻

育苗・田植え時期にあるが、水不足になると育苗日数の延長で、苗の徒長や老化、病害の発生が懸念される。移植後の苗では、活着や分けつの遅れなどが予想されるため、地域で話し合い、計画的な配水を実施する。

通水用の溝の設置（溝切り）や、ポリチューブの利用により少量の水を効率良く利用できるよう努める。

### 1) 育苗期から田植え期にあるものの対策

#### 【老化苗対策】

- ① 育苗日数が延びることを想定し、播種量は厚播きとならないよう注意する。
- ② 苗が伸びやすいため、温度管理は高温とならないように注意する。
- ③ 播種後25日を過ぎると肥料切れしてくるので、1箱当たり成分量で0.5g程度の窒素を追肥するとともに、散布後かん水して葉焼けを防ぐ。  
※（例）苗箱1箱当たり「硫安3g」を0.5ℓの水に溶かして散布。
- ④ 育苗の後期は、寒冷紗等で遮光し高温を防いだり、苗箱の間隔を広げて通気を良くする。また、苗へのかん水は出来るだけ控える。
- ⑤ 育苗期間が長引くと苗いもちが出やすいので発生に注意し防除する。
- ⑥ 苗の老化や病害により移植に耐えられないことが想定される場合は、早めに苗の確保に努める。

### 【田植え対策】

- ① 代かき時は多量の水を必要とするので、地域で話し合い計画的な配水を進める。
- ② 水持ちを良くするために代かきは丁寧に行い、また水尻や畦畔からの漏水を防ぐ。田植え後の浅水を想定して、植え代はできるだけ均平に行う。
- ③ 苗が軟弱徒長となり、移植作業に支障を来す場合は、第2葉の中央部から剪葉し、植付ける。
- ④ 高冷地などで田植えが遅れ、茎（穂）数不足が懸念される場合は、1株当たりの植付け本数や、栽植密度を多くする。この場合、苗箱を多めに準備する。

## 2) 活着期から分けつ期にあるものの対策

### 【水管理・除草等】

- ① 湛水が困難な場合は、2～3日毎に走り水程度のかん水で間に合わせる。
- ② 除草剤を散布は、用水が切れないように注意する。  
特に、ジャンボ剤やフロアブル剤では、水が少ないと薬剤の拡散が不十分となり薬害を発生させることもあるので注意する。
- ③ 残草が多いとさらに水や養分を収奪するので、中・後期除草剤で除草する。
- ④ タニシやウンカ類の被害が見られたら、適期防除に努める。